



清 央 小 だ よ り

令和5年度 第20号
2023.12.12 文責 室田和宏

教 育 目 標 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」
・自ら学び工夫する子ども (考える)
・元気でがんばる子ども (鍛える)
・礼儀正しく思いやりのある子ども (思いやる)

“地域と共にある学校 清原中央小学校！”

この時期、清原中央小学校が“地域と共にある学校”であることを、強く実感させられます。2年生が徒歩で鬼怒川園さんへ出かけてりんご狩りをしたり、5年生がOB会の様にお越しいただいて、鬼怒川の水運や船頭鍋の由来などの話をうかがったりと、本校ならではの行事が目白押しです。“昔遊び”ではOB会の皆様を中心に、たくさんの名人先生がボランティアとして協力して下さい、その役割分担までも担当の方たちが相談して割り振って下さいます。

2023年の学校生活も残すところ1週間余りとなりました。これまで協力していただいた皆様への感謝の気持ちをかみしめながら、学習のまとめにしっかりと取り組んで参ります。



全校生で歌声あわせて音楽集会



鬼怒川の水運出前講座



2年生のりんご狩り



キョデレラのメイキング



第2回夢プロ報告会



清原学校園お弁当の日



読書ボランティアの皆さん



昔遊び ベーゴマに挑戦



清原学校園あいさつ運動

働き方改革とカリキュラムマネジメント＜シリーズ②教科担任制とローテーション道徳＞

国や県市の方針を受け、清原中央小学校では、令和2年度から積極的に高学年の教科担任制を採用入れ、研究を積み上げています。教科の専門性が高まってくる高学年において、質の高い授業実践を目指すとともに、一人一人の教員の担当教科数を減らし、授業準備の削減を図る目的もあります。中学校と異なり、すべての教科を専門の教師が受け持てるだけの人的な配置が小学校ではなされていないため、課題もありますが、先進的に4年間研究を積み上げてきた成果は大きいと言えます。

また、3年生以上で“ローテーション道徳”という取組をしています。一人の教員が一つの題材を研究した後に1, 2組の両方で授業をすることで、一人の教員の授業準備は1/2ですみます。また、2回授業をすることにより、児童の反応も予想しやすく、研究が深まるという利点もあります。

複数名の教員が、一つのクラスの指導に関わることは、多様な視点から児童観察をすることにもつながり、以前よりも学年の経営が円滑に進むようになったことも成果の一つです。どちらも比較的新しい取組であることから、調整等に時間がかかる課題はありますが、今後も継続してカリキュラムマネジメント（教育計画の統合、組み換え、廃止等による効率化や有効化）に生かしていきたい本校の特色です。